

第24回 STSとDRT ②

タクシーとバスの良さ生かすDRT

今回はDRTについてみていきたいと思います。DRT (Demand Responsive Transport) とは、利用者の需要 (デマンド) に応じて運行する交通サービスのことで、日本語に訳すと需要応答型交通となります。ただし、このDRT・需要応答型交通という呼び方はどちらかという学術的な場面で使われ、一般には、デマンド型交通、デマンド方式、デマンドバス/タクシーなどと呼ばれることが多いようです。

DRTの基本的な仕組みは、需要がある (利用者がある) 場合にのみ車両を運行させ、また、運行ルートをもその都度変更させるというものです。ただし、DRTはその地域の特性に合った車両や運行形態を個々に模索しながら導入されるので、一定の様式というものはありません。しかし、そこにはタクシーと路線バス双方の良さを最大限活かそうという考え方が共通しています。では、具体的にDRTとはどのようなものなのか、千葉県柏市のケースを例にみてみましょう。

“バス料金で乗るタクシー” を実現

千葉県柏市では09年、小型バスとタクシー車両を用いたDRT “コンビニクル” の実験運行が行われました。

このDRTの主な仕組みは、利用者が予約を入れ、その予約の状況に応じて最も合理的なルートを車両が走行するというものです (下図参照)。また乗り合いにすることで、一人当たりの利用料を路線バス並みに抑えています (実験中は無料)。利用者からみたこのDRTのメリットは、まず希望の場所まで車が迎えに来てくれ、また自由に行き先を指定できる点です。そして利用の自由度が高いにもかかわらず、利用料が安い点です。逆にDRTの実施主体である運行会社からすれば、総予約制のため、誰も乗っていない車両を走らせる、いわゆる “空気を運ぶ” ことがなくなり稼働率が上がります。合理的な運行でコストダウンを行い、安く利便性の高い交通を実現したという点が柏市のDRTの醍醐味です。

今回は…

STSとDRT ③

DRT・予約と運行のイメージ

